

子宮頸がんワクチン（HPV）予防接種に関する説明書

原則、1回目に接種したワクチンと同じ種類のワクチンで2回目、3回目も接種してください。

※接種方法については市町村担当課までご連絡ください。

<子宮頸がんワクチン接種について>

HPVワクチンは、平成25年(2013年)4月1日より、法律に基づく定期接種として実施しているところですが、厚生労働省から積極的な接種勧奨が差し控えられておりました。

この度、国の調査会においてワクチンの安全性について特段の懸念が認められないことが確認され、令和4年4月から積極的な接種勧奨を再開し、これまで積極的な勧奨の差し控えにより接種機会を逃した方についても、公平な接種機会を確保する観点から時限的に、従来の定期接種対象年齢を超えて HPV ワクチン接種を行うこと（キャッチアップ接種という。）となりました。

<キャッチアップ接種対象者となる方の要件>

*1997年度(平成9年度)生まれ～2007年度(平成19年度)生まれまでの(誕生日が1997年(平成9年)4月2日～2008年(平成20年)4月1日生まれ)の女性

*過去に HPV ワクチンの接種を合計3回接種していない方

※過去に接種したワクチンの情報(ワクチンの種類や接種時期)については、母子健康手帳や予防接種済証でご確認ください。

<接種期限>

令和7年3月31日まで

<子宮頸がんについて>

子宮頸がんは子宮の入り口部分にできるがんです。このがんになると子宮やその周りの臓器を摘出しなければならなくなることがあります。妊娠や出産の問題はもちろん、その後の生活や命そのものにも重大な影響を及ぼす危険な病気です。

日本では婦人科領域の悪性腫瘍の中で、乳がんに次いで多いがんです。年間約11,000人が罹患し、その内約2,900人が亡くなっています。

この子宮頸がんの原因のほとんどは、ヒトパピローマウイルス（HPV）感染によるものです。皮膚と皮膚（粘膜）の接触によって感染するウイルスで、多くの場合、性交渉によって感染すると考えられています。女性の50%は一生のうちに一度は感染するといわれていますが、感染は一時的で自然消失するのがほとんどです。しかし、免疫力の低下等により感染が長期化すると子宮頸がんへと進む危険性があります。

1. 子宮頸がんワクチンについて

HPVは100種類以上確認されており、その内約15種類ががんと関連が指摘されています。現在、HPVの感染に起因する疾患の予防ワクチンは以下の3種類です。

ワクチンの種類	予防効果のある HPV の種類	子宮頸がんの原因を予防できる範囲
サーバリックス	16型、18型（高リスク型）	64.9～71.2%
ガーダシル	16型、18型（高リスク型） 6型、11型（低リスク型）	
シルガード9	16型、18型、31型、33型、45型、52型、58型（高リスク型） 6型、11型（低リスク型）	81.0～90.7%

※高リスク型は子宮頸がんなど、低リスク型は尖圭コンジローマ等の原因

いずれかのワクチンを接種することにより、再感染や持続感染を予防して、がんになるリスクを低減することができます。感染する前の接種が効果的です。

※すでに感染している HPV を排除したり、がんの治療をしたりする効果はありません。あくまでも接種後の HPV 感染を予防するワクチンです。

※すべての発がん性 HPV を予防できるものではありませんので、接種しても発症する可能性はあります。また、ワクチン接種をしてもがん検診の年齢に達したらがん検診を定期的にうけることが大切です。

※ワクチンの効果については、16歳頃までに接種するのが最も効果が高いですが、それ以上の年齢で接種しても、ある程度の有効性があることが、国内外の研究で示されています。また、明らかな安全性の懸念は示されていません。

※HPV ワクチンを6カ月間に3回接種することで抗体をつくることができます。

(1～2回の接種では十分な抗体ができません)

2. 交互相種について

同じ種類の HPV ワクチンで接種を完了することを原則としますが、すでにサーバリックスあるいはガーダシルを用いてキャッチアップ接種の一部を終了した者が残りの接種を行う場合には、適切な情報提供に基づき、医師と被接種者等がよく相談した上で、シルガード9を選択しても差し支えありません。

3. ワクチン接種スケジュール

※半年の間に3回接種

	標準的な接種方法	標準的な接種方法をとることができない場合
サーバリックス	 <p>1回目 2回目 (1カ月後) 3回目 (1回目接種から6カ月後)</p> <p>1月の間隔をおいて2回行った後、 1回目の注射から6月の間隔をおいて1回行う。</p>	 <p>1回目 2回目 (1月以上の間隔) 3回目 (1回目接種から5月以上かつ2回目接種から2月半以上の間隔)</p> <p>1月以上の間隔をおいて2回行った後、 1回目の注射から5月以上、かつ2回目の注射から2月半以上の間隔をおいて1回行う。</p> <p>※2回目の注射が1回目の注射から2月以上の間隔となった場合、「標準的な接種方法をとることができない場合」に該当しますので、1回目から3回目は5月以上、かつ2回目から3回目は2月半以上の間隔をおいて行います。</p>
ガーダシル	 <p>1回目 2回目 (2カ月後) 3回目 (1回目接種から6カ月後)</p> <p>2月の間隔をおいて2回行った後、 1回目の注射から6月の間隔をおいて1回行う。</p>	 <p>1回目 2回目 (1月以上の間隔) 3回目 (2回目接種から3月以上の間隔)</p> <p>1月以上の間隔をおいて2回行った後、 2回目の注射から3月以上の間隔をおいて1回行う。</p> <p>※2回目の注射が1回目の注射から3月以上の間隔となった場合、「標準的な接種方法をとることができない場合」に該当しますので、2回目から3回目は3月以上おいて行います。</p>
シルガード9	 <p>1回目 2回目 (2カ月後) 3回目 (1回目接種から6カ月後)</p> <p>2月の間隔をおいて2回行った後、 1回目の注射から6月の間隔をおいて1回行う。</p>	 <p>1回目 2回目 (1月以上の間隔) 3回目 (2回目接種から3月以上の間隔)</p> <p>1月以上の間隔をおいて2回行った後、 2回目の注射から3月以上の間隔をおいて1回行う。</p> <p>※2回目の注射が1回目の注射から3月以上の間隔となった場合、「標準的な接種方法をとることができない場合」に該当しますので、2回目から3回目は3月以上おいて行います。</p>

※交互相種のスケジュールについて

サーバリックスまたはガーダシルで接種を開始し、キャッチアップ接種としてシルガード9で接種を完了する場合は、シルガード9の接種方法に合わせて行います。

サーバリックス、ガーダシルの交互相種はできません。ただし、過去に接種したワクチンの種類が不明の場合、ワクチンの種類等について医師と被接種者がよく相談の上、接種を再開することができます。(仮にサーバリックス、ガーダシルの交互相種となった場合も、安全性に関する大きな懸念は示されておりません。)

4. 副反応について

接種は筋肉注射になります。ワクチン効果を高める為、アジュバント（免疫増加剤）が添加されており、**痛み・赤み・腫れなどの接種部位の反応があります。**体内でのウイルスに対しての免疫反応です。通常数日で治ります。主な副反応は以下の通りです。

頻度	サーバリックス	ガーダシル	シルガード9
10%以上	かゆみ、注射部分の痛み・赤み・腫れ、胃腸症状（吐き気、嘔吐、下痢、腹痛など）	注射部位の痛み・赤み・腫れ	注射部位の痛み・赤み・腫れ
1~10%未満	発疹、じんましん、注射部分のしこり、めまい、発熱、上気道炎	発熱、注射部分のかゆみ・出血・不快感 頭痛	発熱、注射部分のかゆみ・出血・熱感・しこり・知覚消失、頭痛、感覚鈍麻、悪心
1%未満	注射部分のピリピリ感/ムズムズ感	注射部分のしこり、手足の痛み、筋肉が硬くなる、下痢、腹痛、白血球数増加	手足の痛み、腹痛、下痢
頻度不明	失神・血管迷走神経発作（息苦しい、息切れ、動悸、気を失うなど）	無力症、寒気、疲労、倦怠感、血腫、失神、浮動性めまい、関節痛、筋肉痛、嘔吐、悪心、リンパ節症、蜂巣炎	無力症、悪寒、疲労、倦怠感、内出血、血腫、硬結、失神、浮動性めまい、関節痛、筋肉痛、嘔吐、リンパ節症、蜂巣炎、インフルエンザ、口腔咽頭痛

※まれに重い副反応としてショック・アナフィラキシー様症状があらわれることがあります。

※健康被害救済制度について

定期の予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障が出るような障害を残すなどの健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく給付を受けることができます。

ただし、その健康被害が予防接種によって引き起こされたものか、別の要因によるものかの因果関係を専門家からなる国の審査会にて審議し、予防接種によるものと認定された場合に給付を受けることができます。

5. 予防接種の注意事項

※予防接種は体調の良いときに受けることが原則です。

<接種前の一般的注意事項>

◎接種の予約については、かかりつけ医にご相談ください。

①予防接種の効果や副反応、健康被害救済制度について理解した上で接種をお受けください。

わからないことがある場合は接種を受ける前にご相談ください。

②予診票は接種をする医師への大切な情報ですので、責任を持って記入してください。

③妊娠中の接種に関する有効性・安全性は確立していないことから、妊娠の可能性のある者には接種を行わないことが望ましいとされています。

④母子健康手帳又は予防接種済証を必ずお持ちください。

<接種後の一般的注意事項>

①接種後30分は急な副反応がみられることもありますので、接種会場で様子を見てください。

②入浴は差し支えありませんが、接種部位はこすらないようにしましょう。

③接種当日は、はげしい運動は避けてください。

令和6年度版

茂原市長生郡医師会

長柄町 福祉課

問い合わせ：長柄町 福祉課 子育て支援係 TEL：35-2414 FAX：35-2459